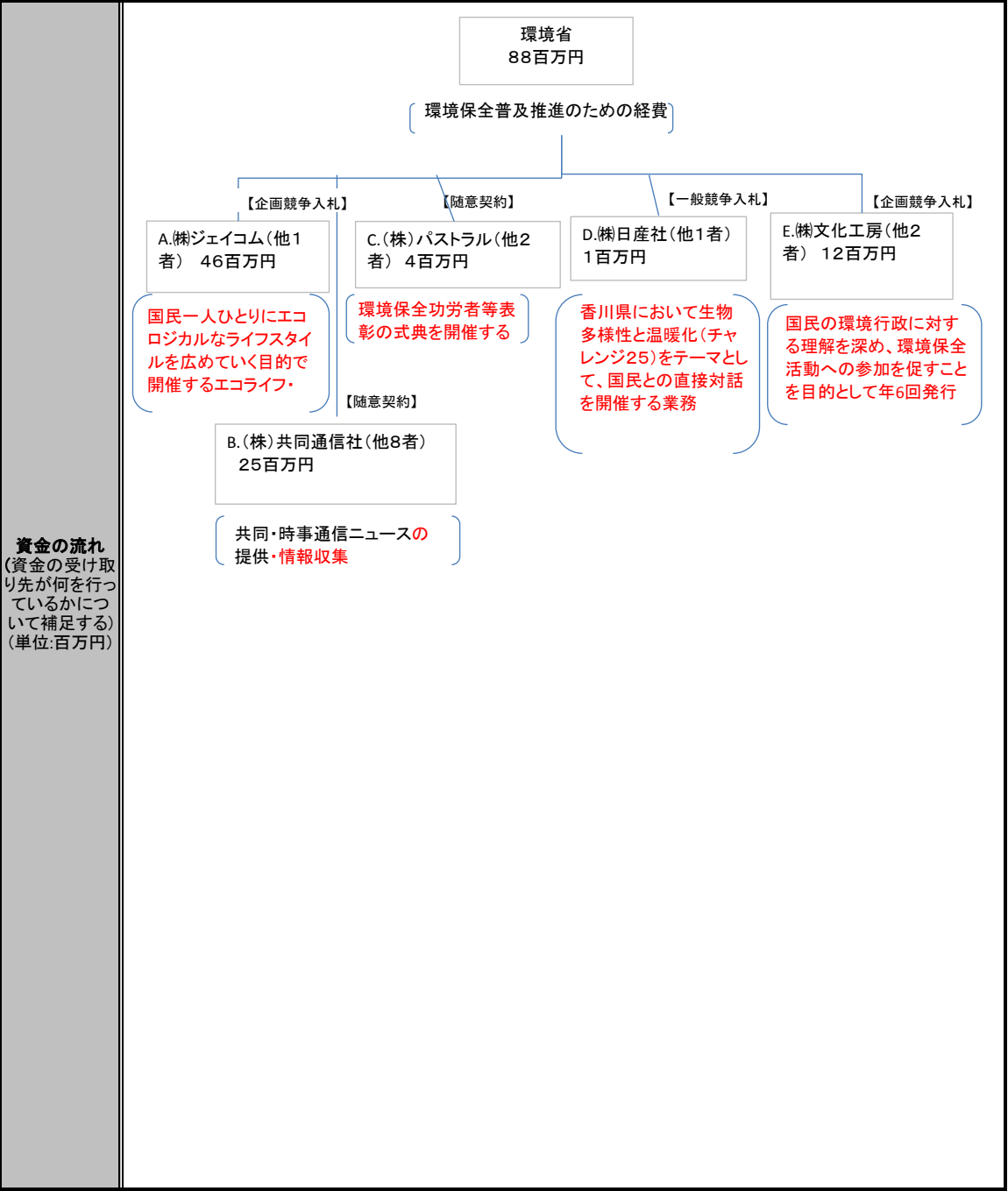


行政事業レビューシート (環境省)						
予算事業名		環境保全普及推進費		事業開始年度	平成2年度	作成責任者
担当部局庁		大臣官房政策評価広報課		担当課室	広報室	瀬川 恵子
会計区分		一般会計		上位政策	環境政策の基盤整備	
根拠法令 (具体的な条項も記載)		環境基本法第10条		関係する計画、通知等	—	
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)		①エコライフ・フェアは、国民一人ひとりにエコロジカルなライフスタイルを広めていくことを目的として、環境問題の現状と将来を誰にでもわかりやすい形で紹介することにより、環境保全の大切さを理解してもらうとともに、環境保全活動への積極的な参加を促すことを目的として開催。 ②環境保全功労者表彰は、環境保全活動に取り組む者(団体)を称えることで、国民に対して自発的な環境保全活動を促すことを目的として実施。 ③国民との直接対話については、環境省は、発足以来「パートナーシップ(協働)」を政策スタイルとして、市民、企業、自治体等との連携のもと、政策を進めるために、国民の環境保全についての関心と理解を深めるとともに、幅広い環境問題について直接国民との意見交換を行うことを目的として開催。 ④環境行政普及徹底を行う経費については、環境行政についての国民の広い理解を高め、環境保全への参加を促すために、重要な政策手法である広報活動の充実強化を図る。				
事業概要 (5行程度以内。別添可)		①エコライフ・フェアは、環境基本法に基づく「環境の日」の事業として、環境省が開催。企業及びNGOをはじめ、業界団体、関連法人、関係地方公共団体が協力して、地球温暖化や生物多様性などを始めとした環境問題を解決するための具体的な活動の実施を促すため、活動参加型の展示、イベントを開催。毎年60,000人を超える来場者があり、環境保全活動の必要性を具体的に活動の気づき、及び実施のきっかけを提供する場として高く評価されている。 ②環境保全功労者表彰は、国民各層の環境保全意識の高揚に資するために、毎年6月の環境月間に長年環境保全活動に取り組み、顕著な功績のあった者(団体)を昭和51年から表彰している。 ③国民との直接対話については、環境省は、発足以来「パートナーシップ(協働)」を政策スタイルとして、市民、企業、自治体等との連携のもと、政策を進めるために、国民の環境保全についての関心と理解を深めるとともに、幅広い環境問題について直接国民との意見交換を行うこととして開催。 ④環境行政普及徹底を行う経費については、環境に関する国の施策や、各主体による環境保全活動をはじめとする環境関係情報を幅広く発信する広報誌(Web版)の企画・制作など、国民の環境行政に対する理解を深めるとともに、環境保全活動への参加を促すことを目的とする。併せて、共同・時事通信ニュースの提供を受け、環境行政普及徹底のための情報収集等を図る。				
実施状況		平成21年度実績 ①エコライフ・フェア2009 日時:2009年6月6日(土)、7日(日) 場所:代々木公園ケヤキ並木・イベント広場 参加団体:企業/団体28団体、NGO/NPO28団体、飲食7団体 来場者数:約65,000人 ②環境保全功労者等表彰式 日時:2010年6月7日(月) 場所:グランドアーク半蔵門 表彰者:110名(団体) ③国民との直接対話 日時:2010年3月13日(土) 場所:香川県高松市 参加者:72人 ④広報誌 発行回数:4号発行 共同・時事通信ニュースの提供、情報収集等(毎日)				
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
予算額(補正後)		111	114	96	96	90
執行額		111	114	88		
執行率		100	100	92		
総事業費(執行ベース)		111	114	88		
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	①エコライフ・フェアは、展示依頼等多数の関係者と同時並行的に調整を行う必要があることから、事業を行う上で、頻繁に請負業者と打合せを行い、進捗状況の報告、より効果的な方法を調整するなど、連絡を密に行っている。 ②環境保全功労者表彰は、表彰式に係わる経費などを計上している。 ③国民との直接対話等については、事業を行う上で、頻繁に請負業者と打合せを行っており、進捗状況の報告、より効果的な方法を調整するなど、連絡を密に行っている。 ④広報誌の発行にあたっては、請負業者との誌面編集のために頻繁に打ち合わせを行っており、進捗状況の報告、より効果的な方法を調整するなど、連絡を密に行っている。共同・時事通信ニュースの提供、情報収集等については、職員の確認の元、仕様に基づいた業務の提供を受けていることを把握している。				
	見直しの余地	各業務については、以下の通り様々な検討を行い必要最小限の経費を計上した上で事業を実施しているが、今後とも業務の効率性や競争性の高い調達方法による契約に努める。また、広報に必要な発進力の強化に努める。 ①エコライフ・フェアについては、これまでに開催した当行事の経験・成果により得られた知見を活かし、今後とも準備及び実施業務の効率性を追求していく。 ②環境保全功労者表彰については、地域で環境保全に取り組む者(団体)が年々増加しており、更なる環境保全の取り組みを促進することが課題。 ③22年度限りの事業。 ④環境行政普及徹底を行う経費については、以下の通り。 ・広報誌:創刊時(平成19年7月号)は紙媒体による広報誌を発行していたが、平成21年3月号より電子書籍化を図り、WEB上で誰でも閲覧が可能となり、より広範に広報を行ってきたが、さらに効率性を追求していく。 ・共同・時事通信ニュースの提供、情報収集等:真に必要な内容に限定した情報の提供を受け、それに基づいた情報収集等を引き続き行っていく。				
予算・監視・所見率	一部廃止 (国民との直接対話等については、所期の目的が達成されたため、平成22年度限りで廃止。 エコライフ・フェア、環境保全功労者表彰事業について、長期にわたり実施していることから、効率的な事業実施に努めるべき。)					
補記						



費目・使途 （「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。使途と費目の双方で実情が分かるように記載）	A.㈱ジェイコム			E.㈱文化工房		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	雑役務費	エコライフ・フェア準備及び実施業務等	45	雑役務費	広報誌企画制作業務等	10
	計		45	計		10
	B.(株)共同通信社			F.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	雑役務費	共同通信ニュース提供	12			
	計		12	計		0
	C.(株)パストラル			G.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	雑役務費	環境保全功労者等表彰のための業務等	2			
	計		2	計		0
	D.㈱日産社			H.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	雑役務費	国民との直接対話の実施に伴う業務等	1			
	計		1	計		0